

「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止する」ことを目的の一つに掲げ、精神障害者・知的障害者への人工妊娠中絶・強制不妊手術を「合法」と認めた優生保護法、そしてその前身である国民優生法。精神医療の現場からほとんど語られてこなかった日本の優生思想の歴史を、遺伝研究史・精神科医療史の視点から膨大な資料を辿りつつ、ひもといてゆく。「優生」の時代を生きる精神科医が見た優生保護法・国民優生法の実相とは――

2024年
7月刊行!

電子書籍版も同時刊行!

詳細は弊社HP電子書籍の案内ページをご覧ください

優生保護法の 時代を 生きる



ある精神科医の戦後史 ○著 岡田靖雄

精神科医が語る唯一無二の同時代史

松原洋子

断種法の歴史はアメリカの精神病院(アサイラム)から始まり、ドイツを経由して国民優生法から優生保護法へと受け継がれた。日本でも強制不妊手術の主な対象は、精神障害者と知的障害者である。したがって強制不妊手術の歴史は、「精神病」「精神薄弱」と名指された人々へのまなざしと処遇の歴史として、まずは書かれなければならぬ。その意味で、本書は待望の二冊である。

た医学史家であり、精神科医として入院患者の強制不妊手術に関与したことを公表した歴史の証言者でもある。本書は、断種・優生・精神病の遺伝に関する精神科医療史と、「歴史的矛盾をつきやぶってすすまなくてはならない」「(はじめに)精神科医が率直に語る唯一無二の同時代史を重ね合わせながら、「強制不妊」とは何かを鋭く問いかける。

(まつばら・ようこ 立命館大学副学長)

優生学法制における精神科医の立場・役割

富田三樹生

精神神経学会は「優生保護法について」という優生保護法についての声明を二〇二四年二月一日付で出した(学会ホームページ)。学会の法委員会は、その声明のもとになる調査研究(私はその理事会への報告書作成時の法委員会委員長)を行ったが、それはこれまでの岡田靖雄先生の多くの著作をベースにしたものであり、それ抜きにしてはあり得な

ったものである。

新たに出たこの本は、従来ふれられることがなかった戦前の精神病学の遺伝研究の流れをも加えて、さらに深く詳細に史実を記述している。優生学法制と精神科医の役割について批判的に検討し、認識を深める上で歴史に残る必読の文献である。

(とみた・みきお 多摩あおば病院 精神科医)



はじめに

第一章 優生思想・断種法の論議

- 優生思想の進展
ゴルトンまで／ゴルトンと優生学／精神医学のなかで
- そして断種へ
合州国で／北ヨーロッパの民主国などで／ドイツで／強制断種の強化／断種法の実施状況
わが国での優生論議
- 福沢諭吉ほか／遺伝研究の始まり／優生論議はすすむ／滅種法の登場／優生運動化の方向へ
- 精神病学界における断種論議
『神経学雑誌』の主として論文、紹介抄録から／マーチン・バー「低格児発生／社会的予防」／昔時の精神病学教科書にみる優生関係事項

第二章 国民優生法の制定へ

- 民族衛生学会
この時代／永井潜という人／民族衛生学会の発足／学会の進展と一波乱／民族衛生協会への改組／関係事情
- 民族優生保護法案審議はじまる
荒川五郎による提案／再提案
断種法をめぐって
厚生省の設立／断種法制定への動き／三人の精神医学者／民勢学的、遺伝学的調査／精神衛生協会会員アンケート／金子準二の反対意見／『脳』のなかで／ほかの反対意見
- 第三回提出および第四回／審議はさらに
- 国民優生法案の審議
国民体力審議会で／国民優生法案の内容／衆議院で／貴族院で
- 国民優生法の施行
優生課長特別講演ほか／国民優生法の施行／脇の目から／国民優生法の効果は？

第三章 優生保護法の制定から廃止まで

国の動き

一 優生保護法制定にむけて

太田典礼はかたる／帝国議会で／谷口弥三郎質問書／優生保護法案提出へ／交渉／優生保護法案の本格的審議

- 二回の改正
一九四九年改正／精神衛生法制定ほか／一九五二年改正
- 改正ののち
人工妊娠中絶はすすむ／優生手術の動向
- 戦後の精神科医療
荒廃のなかの精神病院／一九五三年陳情
- 優生保護法と精神科医
優生保護法についての意見(一)／優生保護法についての意見(二)
- 実施された優生策
実施の流れ／流れのなかで／優生保護法運用の実態(その一)／優生保護法運用の実態(その二)／優生手術推進の地方差
- 改正の動きから優生案項削除へ
優生保護法改正の動き／日本児童精神医学会／日本精神神経学会／優生案項削除への動き／国会で

第四章 そののち、そしてこれから

- そののち
新聞記事などから／わたしの場合／周辺のこと
- そしてこれから
性欲を満足させる権利／あたらしい優生の時代

補章 戦前の日本精神病学における遺伝研究

- 初期の見解
江戸時代まで／相馬事件／神俣／巢鴨病院年報
- 血族結婚
中村讓、岡崎昌などの調査
- 本格的調査のはじまり
臨床的遺伝研究
- 臨床から／三宅鉦一ほかの精神病の統計的研究
- 本格的双生児研究の始まり
臨床をふかめて
- 一斉調査および穿試法
その始め／内村門下による体系的研究

あとがき

著者紹介

岡田靖雄(おかだ・やすお)

一九三二年生まれ

一九五六年、医師免許取得。東京都立松沢病院などをへて、現在、青柿舎(精神科医療史資料室)主人

◎主要編著書

『私設松沢病院史』岩崎学術出版社、一九八一年

『吹き来る風に——精神科の臨床・社会・歴史』中山書店、二〇一一年

『もうひとつの戦場——戦争のなかの精神障害者』市民』六花出版、二〇一一年

『精神障害者問題資料集(戦前編および戦後編)』六花出版、二〇一〇～二〇一八年

『相馬事件——明治の世をゆるがした精神病問題 その実相と影響』六花出版、二〇一二年

既刊図書のご案内

相馬事件

明治の世をゆるがした精神病問題 その実相と影響

●著 岡田靖雄

明治の世をゆるがし、精神病患者監護法制定のきっかけとなった「相馬事件」とは何だったのか。舞台となった相馬家の成り立ちから騒動の顛末を丹念に追ひ、当時の新聞記事や供述書、膨大な関連書籍から事件の進展と実相、そして社会に与えた影響を紹介する。

●体裁 A5判/上製/368ページ

●定価 4,500円+税(税込4,950円)

2022年7月刊 ISBN978-4-86617-189-0

注文カード

帖合・貴店名

(八木書店経由)

注文数

優生保護法の時代を生きる
ある精神科医の戦後史定価●四、九五〇円(税込)
ISBN978-4-86617-248-4

お名前

お電話番号

注文 年 月 日

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。

●お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(62693)8787

Fax03(62693)8788

電子メール info@rikka-press.jp

発行 六花出版 著 岡田靖雄